昭和47年7月災害

昭和49年7月災害

災害について

■昭和47（1972）年7月災害

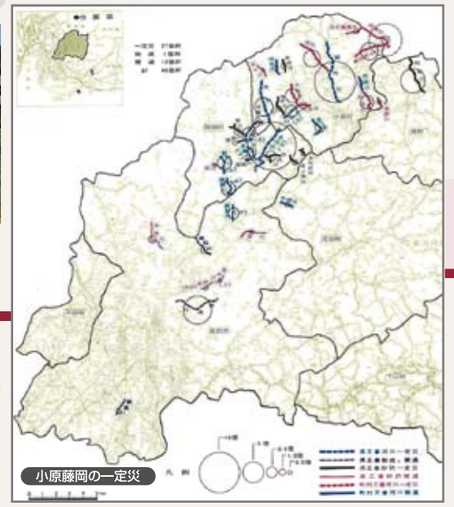
■昭和47（1972）年7月9日夕刻から降り続いた雨は、12日夜半から強くなり、特に西三河山間部において、13日の日降水量309mmを記録し、14日朝までに458mmに達する集中豪雨となった。この雨によって、各地で山崩れ・崖崩れ、河川の氾濫が発生し、埋没・倒壊・流出家屋が続出した。

被害の概要

死者	64人	全壊	271世帯	田畑被害（流出・埋没・冠水）	10,573ha
負傷者	112人	半壊	287世帯	農作物被害額	5,788,177千円
行方不明	4人	床上浸水	2,075世帯	公共土木施設被害額	15,371,510千円
計	180人	床下浸水	12,077世帯		

■昭和47（1972）年7月災害【小原藤岡の一定災】

■災害復旧工事は原形復旧が原則であるが、特に激甚で『復旧でなく復興する』改良復旧に基本方針を定め、激甚被災箇所の復旧については、一定災、助成、関連工事等により、昭和47(1972)年7月豪雨と同等の降雨があっても、再び被災しないように断面決定し、改良復旧工事を実施した。



■昭和49（1974）年7月災害

昭和49年7月災害【梅田川】

■台風8号及び梅雨前線により、7日から8日には、東三河から知多半島にかけて大雨に見舞われた。また、低気圧の移動に伴い、24日から25日には尾張西部から知多半島にかけて大雨に見舞われた。

被害の概要

死者	4人	全壊	23世帯	田畑被害（流出・埋没・冠水）	21,367ha
負傷者	19人	半壊	112世帯	農作物被害額	4,801,255千円
行方不明	0人	床上浸水	9,132世帯	公共土木施設被害額	10,656,511千円
計	23人	床下浸水	86,648世帯		

■昭和49（1974）年7月災害【梅田川の改修】

■梅田川は、昭和5(1930)年からの県費継続事業により改修が行われていたが、昭和49(1974))7月豪雨により、床上、床下合計1,575戸もの被害を受けた。この災害を契機に、梅田川水系全体計画の策定に着手し、昭和63(1988)年度より中小河川改良工事に着手し、改修が進められた。

昭和49年7月集中豪雨氾濫域（梅田川）

■昭和51（1976）年9月災害

■8日～13日に本土を襲った台風17号及び前線豪雨の降雨量は連続雨量633mmという明治29（1896）年以来の記録的な雨量となった。年間降水量の1/3強の雨量が短期間に集中したため、尾張、海部地域及び知多半島の中小河川は相次いで破堤、氾濫、ため池の決壊などが起こり、各地で浸水被害が続出した。

被害の概要

死者	1人	全壊	14世帯	被災者数	423,000人
負傷者	37人	半壊	437世帯	田畑被害（流出・埋没・冠水）	12,513ha
行方不明	0人	床上浸水	13,050世帯	公共土木施設被害額	8,447,956千円
計	38人	床下浸水	102,677世帯		

昭和51年9月災害

■昭和51（1976）年9月災害【阿久比川の激特】

■阿久比川水系では、昭和51（1976）年9月豪雨により、十ヶ川の氾濫に加えて、矢勝川、前田川が破堤し、床上、床下浸水が4386戸、浸水面積が674.8haと甚大な被害が発生した。
阿久比川・十ヶ川は、河川激甚災害対策特別緊急事業に採択され、殿越川横断地点から半田小橋に至る区間の護岸、掘削、伏せ越し等の整備（事業延長約4.3km）が実施された。

東南海地震、三河地震、南海地震

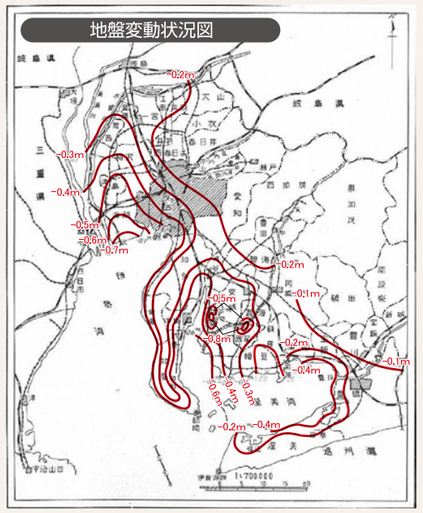
■油ヶ淵沿岸では、昭和19(1944)年12月7日の東南海地震、昭和20(1945)年1月13日の三河地震、昭和21(1946)年12月21日の南海地震の影響を受けて、平均70cmの地盤沈下が発生した。

■地盤沈下により、海面と油ヶ淵の水面との差が減少し、高浜川及び新川の流下能力が減少し、洪水が油ヶ淵沿岸に氾濫し、湛水は数日に及ぶこととなった。

現在の油ヶ淵

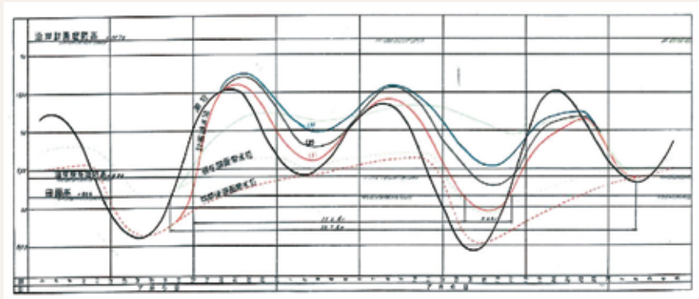
油ヶ淵周辺の氾濫状況

地盤変動状況図



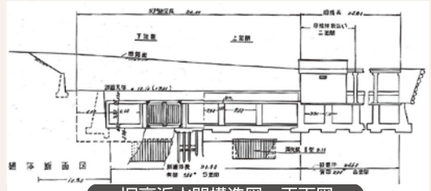
■油ヶ淵水系災害助成事業（昭和27年度～昭和33年度）

■油ヶ淵水系災害助成事業では、油ヶ淵の周囲に築堤し、高浜川の川幅を倍の60mに拡幅することにより、洪水の一時的な貯留と短時間での排水が可能となり、耕地の湛水時間が短縮されている。



油ヶ淵水位曲線図

旧高浜水門



旧高浜水門構造図　正面図